

【刑 法】

下記の問題1と問題2の両方に解答しなさい。

問題1

某日午後9時ころ、甲は、インターネットの出会い系サイトで知り合ったA女（17歳）と一緒にホテルBの3階の部屋に入った。甲は、幻覚・妄想を引き起こすほか体質・体調によっては意識障害・筋弛緩・呼吸困難などを引き起こす作用がある薬物C（医療外で用いることが法令で禁じられている）を、その薬理作用を熟知していたので幻覚・妄想のみならず意識障害・筋弛緩・呼吸困難などが起こるかもしれないことを認識・認容しながら、A女に対し、「嫌なことを全部忘れて気分が良くなる薬がある。」と言って、注射することを誘った。A女は「母親とケンカしてムシャクシャしているの。気分が良くなりたいわ。」と言って、薬物Cを注射することを承諾した。そこで、甲は、A女の右腕に薬物Cを溶かした水溶液を注射器を使って注射した。ところが、A女は、注射後しばらくすると目がうつろとなり意味不明の言葉をぶつぶつと口にしたり、「熱い、熱い」と言って服を脱いで下着姿になり、部屋の窓から外に出て行こうとしたりした後、急に意識を失って倒れた。甲は、午後11時ころになってもA女が意識を回復せず、呼吸が弱ってきていたが、薬物Cを使用したことが警察に知られることを恐れて救急車を呼ぶなどしなかった。甲は、A女をこのまま放置すれば生命に危険があると思ったが、午後11時30分ころ、A女を部屋に残したまま、ホテルBを出た。翌日午前10時30分ころ、ホテルBの従業員が死亡しているA女を発見した。解剖の結果、A女の死因は薬物C中毒による急性心不全であるが、薬物Cを注射してから6時間以内にA女に適切な医療措置を受けさせていればほぼ確実に救命できたことが明らかとなった。

甲の罪責を論じなさい（ただし、特別法違反の点を除く）。なお、解答は、解答用紙の所定の範囲に収まるように作成しなさい。

問題 2

某日午後 11 時ころ、乙は、D 駅から電車に乗ったところ、車両乗降口の脇に黒色の財布が落ちているのを見つけた。乙は、その財布は、近くの座席に居眠りしながら座っている E が落としたものだと思ったが、生活費に困っていたので、黙って拾い上げ、次の F 駅で降車して持ち去った。実は、その財布は、D 駅で降車した G が落としたものであり、G は自宅に帰るまで財布を落としたことに気づかなかった。

乙の罪責を論じなさい（ただし、特別法違反の点を除く）。なお、解答は、解答用紙の所定の範囲に収まるように作成しなさい。